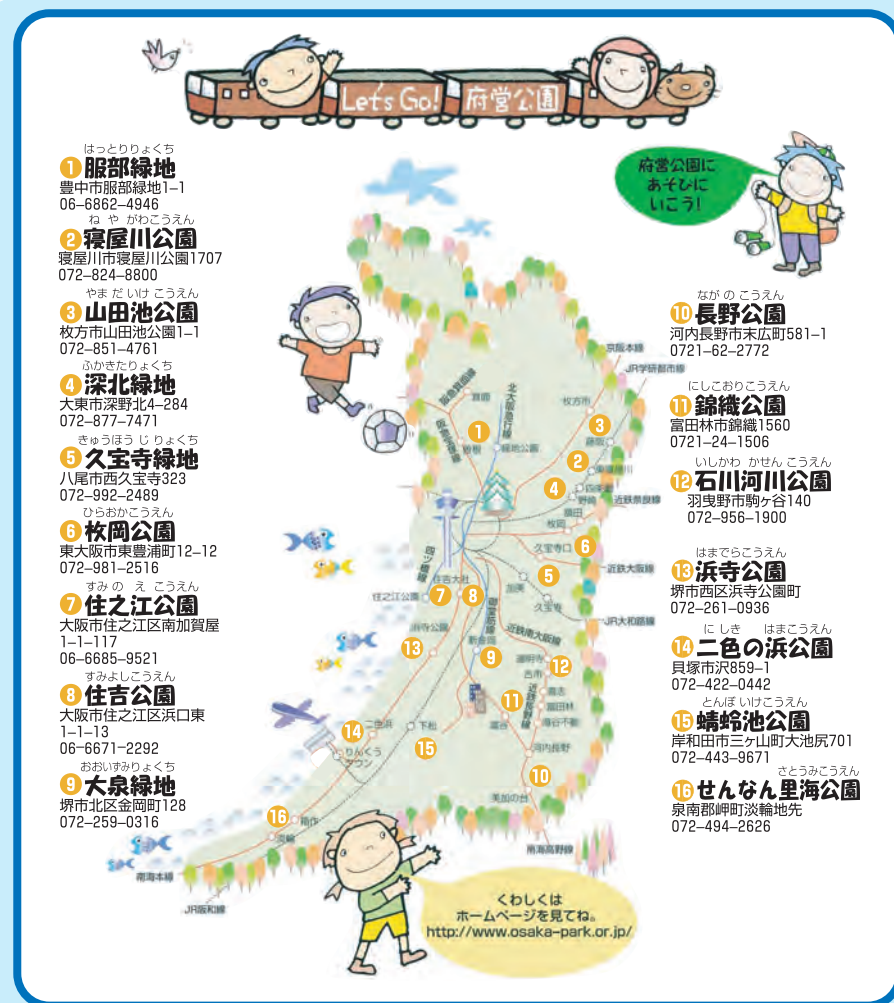


遊具であそべる府営公園マップ



このパンフレットは、保育園・幼稚園および小学校の教員を対象に作成しております。

参考文献

「仲良く遊ぼう安全に」(社)日本公園施設業協会

ケガや事故が起こった場合は、こちらに連絡してください。

実際に遊びに行かれる公園の連絡先をご記入ください。

遊具であそぼう

——先生のために

はじめに

●「子ども」と「遊び」

子どもは、遊びを通していろいろな難しいことに挑みながら身体も心も発達し、創造性、主体性などを向上させます。また、他の子どもとの遊びは情緒的、社会的、道徳的さらに知的発達をもたらします。このように遊びの中で、子どもは生活していく上に必要な能力が培われ、また感情の自由な表出がされることによって大きく成長してゆきます。

●「遊具」と「危険」

遊具は、子どもに楽しい遊びを提供する大切な道具です。遊びには、ある程度の危険が伴うもので、この危険への挑戦が楽しさにつながり、さらには危険を回避する能力や、危険を予知する能力が養われます。

はじめに

●「リスク」と「ハザード」

遊びの楽しさに伴う危険を「リスク」といいます。

一方で遊びの楽しさとは関係のないところで発生する危険を「ハザード」といいます。リスクは先生が適切に指導し見守りながら遊ばせることにより回避できます。しかし、ハザードは事故が起こる前にすべてを取り除いておく必要があります。

ハザードには、ヒト（利用者）に関わるものと、モノ（遊具）そのものに関わるものの2種類があります。

利用者の不適切な行動も遊具の不具合と同じハザードと言えるのです。

このパンフレットでは、主にヒトに関わるハザードについて説明しています。ヒトに関わるハザードの例としては、次のようなものがあります。

〈ヒトのハザード〉

- ◆遊びながらふざけて押す、突き飛ばす、動く遊具に近づく、遊具の上から物を投げる。
- ◆ひとり乗りの遊具に何人もの人が乗る。
- ◆落下防止柵を乗り越えて飛び降りる。
- ◆児童が幼児用遊具で遊び幼児にケガをさせてしまう。
- ◆絡まりやすいヒモのついた服やマフラー、脱げやすいサンダルなどを着用して遊ぶ。
- ◆管理者の指示する内容に反する危険な行動をとる。

先生方には重大な事故につながる可能性のあるハザードについて理解していただき、そして安全な遊具の遊び方を子どもたちに指導して下さい。

遊ぶ前の注意

遊ぶ前には服装や天気など、様々なことに注意する必要があります。

●遊ぶ時の服装

- ①上着の前を開けっ放しにしない。
- ②マフラーやヒモ付きの手袋はとる。
- ③パーカーなどの首のまわりにヒモの付いた服は身につけない。
- ④かばん、水とう、ランドセルは外す。
- ⑤サイズが合った脱げにくい靴をはく。
- ⑥靴のテープはきちんと止める。靴ヒモはしっかりと結んでおく。

●遊ぶ時の天気

- ①雨にぬれた遊具は滑りやすいので注意する。
- ②カミナリが鳴ったら外で遊ばせないようにする。
- ③日射病、光化学スモッグに注意する。
- ④日射によりスチールなどが過熱する部材があるので、やけどに注意する。

●遊ぶ時の体調

- ①体調の悪い時は、運動能力・注意力も低下しており、さらに健康を損ねる恐れもあるので無理に遊ばせない。
- ②遊ぶ時には健康管理も大切です。適度に水分を補給して下さい。

●遊び場の確認

- ①遊具は壊れていないか。
- ②石やガラス破片は落ちていないか。
- ③遊具の周りはコンクリートや石で固められていないか。
- ④遊具の周りに放置された障害物はないか。

これらは遊具管理者が注意すべきことですが、先生も注意して、事故防止にご協力下さい。

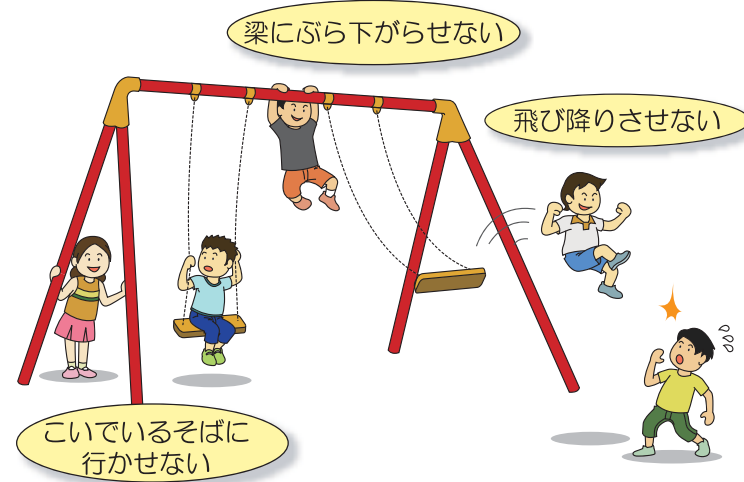
●その他の注意ー重大事故を防ぐポイント

- ①遊具の事故で最も件数の多いのは、落下による事故です。子どもが高い所に登ったり、そこから降りる時には注意しましょう。
- ②首は身体の中でも弱い部分で、首を締め付ける事故は命に関わります。遊ぶ時の服装への注意はもちろん、遊具の隙間にわざと首を挟んだりしないように注意しましょう。
- ③遊具の隙間に手指や足指を挟んだりしないように注意しましょう。
- ④年齢にふさわしくない遊具で遊ばないよう注意しましょう。

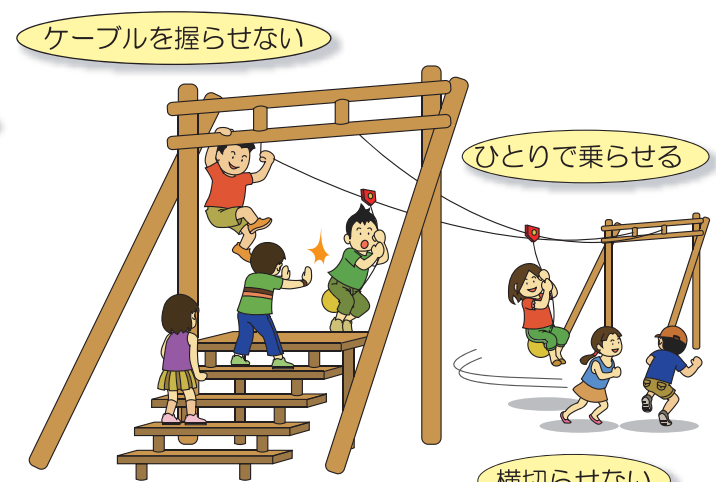


（財）大阪府公園協会のマスコット「パーキィ君」

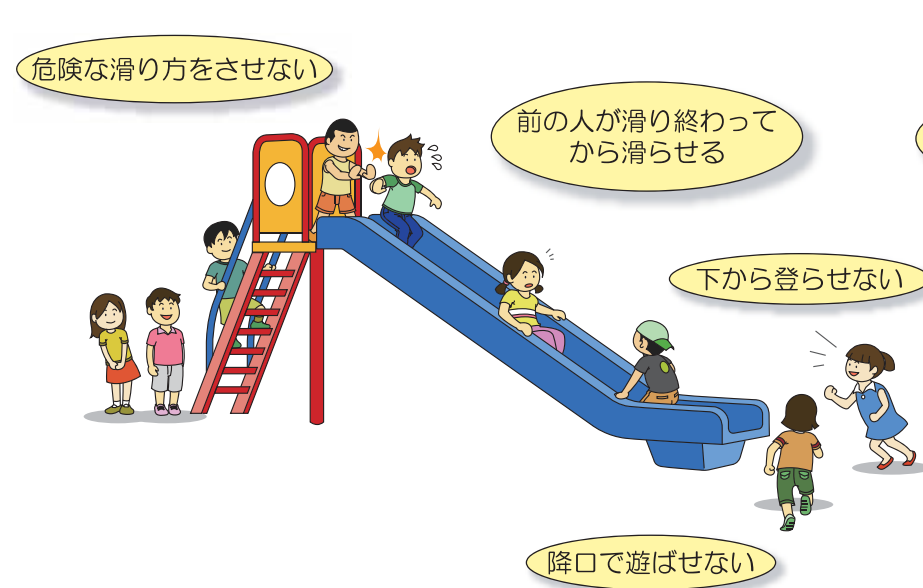
ブランコ



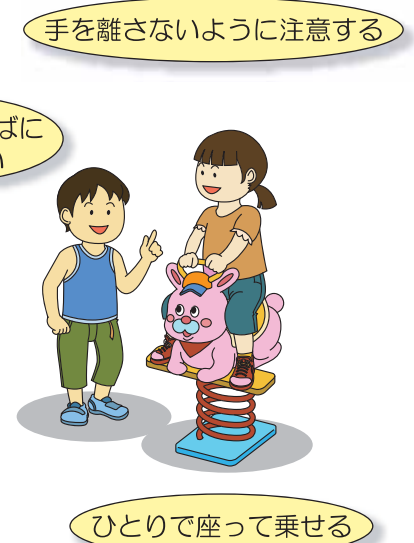
ターザンロープ



すべり台



スプリング遊具



子どもに心得ておいて欲しいこと

遊び場には他の子どもたちもいるでしょう。大きな子ども、小さな子ども、いろいろです。お互いに気を配り、仲良く遊ぶことは事故防止につながります。

他の子どもの遊びを邪魔したり、事故を誘発したりしないように、よく指導して下さい。

先生には子どもを指導する大切な役割があります。遊び場での大人の行動は、子どもの見本になるように心掛けて下さい。

事故が起きてしまったら

●ケガをした場合

- ①緊急の連絡先が表示してある場合は、そこに連絡する。
☆子どもだけの場合、よく教えておいて下さい。
 - ・近くにいる大人のの人に助けを求める。
 - ・公園事務所に行って助けを求める。
- ②大ケガの場合は、公園事務所を通じて救急車を呼んでもらう。

●ケガをした人には

- ①助けを呼ぶ間、付き添っている。
- ②ケガ人は、なるべく動かさない。
- ③打撲などは水で冷やす。
- ④出血がある場合は、水道水で汚れをよく洗い流し、布などでおさえる。
- ⑤大量に出血している場合は、傷口の少し上部を縛り、止血する。